

水城保育園 2024年度 教育及び保育の内容に関する全体的な計画

令和4年4月1日現在

事業の目的 「喜ぶ生きる」保育は人づくり、人づくりが育つこと。「喜ぶ生きる」の法人理念に基づき、喜ぶを志向した人材を生み出すことを事業の目的とする。 「元気でやさしい水城の子」として喜ぶを体験した児童たちは、太宰府の歴史に繋がられ、やがての歴史と新しい命の継ぎ手となる。命のトーンが繋がる中で、喜ぶが連鎖していく。		保育理念（事業運営方針） 「喜ぶ生きる」 法人理念「喜ぶの希求」に基づき、児童・保護者・職員が「喜ぶ生きること」を目指す。地方ならではの一人ひとりと異なる、時に振りよりなる考え方にも陥る危険を伴う。それではお、喜ぶは何かを問い続け学び続けることに価値を置く。それは子どもを結果ではなくプロセスとして評価する保育のあり方と性質を同じくする。	
教育・保育方針 「愛が満ちて、命を喜び、知を喜ぶ」 情みなく愛を与えられた児童は、自他の命を慈しむようになり、命を懐敬する中で知を受容する。 保育者は児童の力を信じ環境を通じた教育を行う。 保育者は人間的環境として、言葉ではなく自分の姿を児童に示す。		園の教育・保育目標 長期目標「一人ひとりが自分らしく輝く」 中期目標「遊びが喜ぶ」 短期目標「遊んで遊ぶ」 環境が「遊んで遊ぶ」遊びを促すことができる。遊びることができる。児童の思いに遊びを子ども自身が関係・展開する機会を確保することで、遊びが深まっていく。	
子どもの教育及び保育目標（学年の重点） （保育目標・保育の内容と毎年度保育計画の事業等項・年間総評計画・行事のねらいは別紙）		3歳児 ゆゆるやかなクラス意識の始まり 文字・数への興味と生活での使用	保育時間など 1号認定／教育標準時間 9:00～13:00（預り保育7:00～9:00および13:00～18:00） 2・3号認定／保育標準時間 7:00～18:00 保育短時間 9:00～17:00（預り保育7:00～9:00および17:00～18:00） 延長保育時間 18:00～19:00
2歳児 想像の世界の扉を開き、現実の世界との往還を楽しむ 自己主張が尊重された先に自己抑制を知る		4歳児 クラスへの主体的参加 STEAMマインドの高まりと長期PJの開始	法的行事（目標の達成目としての行事設定及び行事） 4～6月 入園式／お花まつり／親子遠足／健康診断 7～9月 七夕まつり／子どもクッキング／夕涼み会 10～12月 大運動会／芋掘り／保育参観／秋の遠足／焼き芋大会／餅つき大会／クリスマス会／終業式 1～3月 始業式／振替け大会／登壇まき／ひなまつり発表会／卒園式・修了式
5歳児 主体的協働的な学びの深化 自分たちで定めた自分のルール			
園教育・保育要綱上の教育及び保育の基本及び目標 子どもたちは「有能な学び手」として自ら成長する能力を持ち、保育者の援助を受けながら自身の表現や社会参画を行う。保育者は子どもたちの育ちのプロセスを評価し、保育内容5領域および3つの資質能力を用いながら次のわらわら環境設定に繋げていく。		園教育及び保育において育みたい資質・能力 5領域で分析された子どもの経験から次のわらわらに、方向性を考えるのがこの資質・能力である。小学校以降の教育と関連づけられた幼児期の3柱の資質能力は、幼児期が生涯を通じて獲得される資質・能力の本となることを模範づけるものであることを意識する必要がある。	
園幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 指針で示された100の姿は、児童の姿を指すのではなく、自分が自分であるための共通フォーマットとして用いる。園での豊かな経験の中で自ずと満たされていくと考えられるが、100の姿のどこかに課題が見つかった場合は、自園の保育を振り返る手段になり得る。		園小学校との接続 豊かな園での経験と、自分が自分であるための共通フォーマットとして用いる。園での豊かな経験の中で自ずと満たされていくと考えられるが、100の姿のどこかに課題が見つかった場合は、自園の保育を振り返る手段になり得る。	
園施設との連携 豊かな園での経験と、自分が自分であるための共通フォーマットとして用いる。園での豊かな経験の中で自ずと満たされていくと考えられるが、100の姿のどこかに課題が見つかった場合は、自園の保育を振り返る手段になり得る。		園特に関連すべき事項／発達との連続性と連携 ①発達を促進することで、発達を先取りする教育から脱却し、年齢に合った時間を確保する2年間の時間の中で育ちの向上を目指す意図から「カリキュラム方針」と称した計画で連続性の意識付けを図る。 午前は「個」の発達の時間であり、午後は「個」と「集団」の発達の時間とする。22時以降は小学校への接続カリキュラムとなる。	
教育及び保育の基本と目標 （まなぶ力）科学・芸術への情熱を灯す文化的環境、（生活する力）いていびに生きる生活環境、（かかわる力）助け合いながら最後までやめぬ協働的環境、の3つの環境構築し、児童の成長を支援すること			
園環境（保育実践が行なわれる） 年齢 (0:00-4:00) 乳児 (4:00-8:00) 1歳児 (満1歳以上) (8:00-12:00) 2歳児 (満3歳含む) (12:00-16:00) 3歳児 (16:00-20:00) 4歳児 (20:00-24:00) 5歳児		園小学校以上との接続に備えて 安全・清潔な環境の中で個人成長に促す生理的欲求の充実を図る 運動量の増加に伴う清潔・安全・活動的な環境を確保し、夏冬の温度変化に除去に対応できるようにする 特定の大人との愛着を形成することで、安心感に包まれ、つらい環境を作る 運動量の増加に伴う清潔・安全・活動的な環境を確保し、夏冬の温度変化に除去に対応できるようにする 特定の大人との愛着を形成することで、安心感に包まれ、つらい環境を作る 特定の大人との愛着を形成することで、安心感に包まれ、つらい環境を作る	
◎ねらい及び内容並びに配慮事項 この教育は教育課程に係る1日4時間、年39週を下回らない学校教育のこと			
◎教育及び保育（園児が環境に関わりながら経験する事項） ※乳児は三つの視点、幼児は5つの領域を区分されている基本的事項を十分に準備。 ※要綱上は乳児と1歳児に区分されているので、1歳児を認めた場合は1歳児の5領域を準備。 ※2歳児は、3歳児の誕生日を迎える前は保育、それ以降は教育及び保育に位置づけられる。		健康 ・一人ひとりの心身の基本的欲求の充足 ・情緒・粗大運動および5領域の発達 ・運動量の充足 ・清潔な心身よさ	健康 ・全身を使った運動 ・目の見通しに基づき主体的な生活の始まり ・衣食住への関心と進歩的行動による自立の喜び（着せかえ）等
人間関係 ・人として尊重された行動 ・特定の大人との親密な関係 ・わらわらと絆を深めた時間の共有		人間関係 ・個人としての意識が尊重される ・探求のための安全基地 ・親しい関係を仲介する大人への気持ち ・信頼の広がり	人間関係 ・ゆるやかなクラス意識の始まり ・集団の中での豊かな個別性のかかわり ・見通しをもった生活が可能にする主体的な場面展開
環境 ・元気でありながらゆとりある時間 ・情緒的発達への自らの気づき		環境 ・見立て遊びの充実 ・個人の意思に即した主体的な遊び ・互恵を促した自らの気づき	環境 ・身近なものへの仕組みへの興味関心 【園】生活の中での家での比較、季節感、順序感、5までの加減算
言葉 ・一人ひとりの発達に合った遊び環境と保育者の援助 ・豊かな環境の中での遊びの楽しさ ・環境の応答性（音が出る、伸びる、落ちる、へこむ、固まる等）の充実		言葉 ・基本、命語、わらわらた ・応答の充実 ・言葉の世界の構築 ・初歩的音韻・音韻世界（300音・AからB音韻）の初歩的音韻構築	言葉 2歳文での漢字、1対多の内容理解 【園】持ち寄り・確認 【園】文章理解への関心・絵本のひろい読み・かきた
表現 ・身体表現の豊かさ ・豊かな表現のふれあい ・リズムとメロデー		表現 ・身体表現を用いて自分のイメージを表現 ・伝えたい ・情緒的表現構築（劇、リズム、音楽）1	表現 ・身体表現を用いて自分のイメージを表現 ・伝えたい ・情緒的表現構築（劇、リズム、音楽）2
大健康支援／状態把握・増進・疾病対応		大災害への備え 避難訓練（火災、地震、水害、非常対応）の実施（毎月） 内訳助産の連携による総合訓練（年1回） 消火訓練の実施 ※年2回外部業者による消防設備点検 ※感染症の発生による保健室・心の保健室 ※1年度発生した感染症の発生・対応マニュアル作成により、インフルエンザ・新型コロナウイルス・ノロウイルス他への対応 ※1年度外部業者による点検及び園庭整備 ※多数マップや人数点検など園外保育の安全管理	
大食育の推進 食と主体的な食生活の楽しさの気づき シェアリングの活用・教室での活動において場面転換により自主的となり、清潔を保つと同時にいい生活の教育 子どもの成長の健康維持 感染症の発生による保健室 ※感染症の発生による保健室・心の保健室 ※1年度発生した感染症の発生・対応マニュアル作成により、インフルエンザ・新型コロナウイルス・ノロウイルス他への対応 ※1年度外部業者による点検及び園庭整備 ※多数マップや人数点検など園外保育の安全管理		食育への支援 食育カリキュラム「わらわら」と園児の関わりに基づいた指導 ・食育と食生活の関わりを基本姿勢とする保育者との対話により、子育てでエンパワーメントしていく ・子育てに関する情報を提供し、地域の子育て力向上に努め、また子育てしやすい街を目指す	
情報公開等 ホームページの情報公開（財務・法務・関係） 公開保育や個別園児学による公開 論文・書籍による自園の保育手法の公開		特色ある教育と保育 ・学期と実践の往還の重視 ・学習指導要領に基づく陶冶ではなく環境による支援の持続	
地域の機関と連携した教育事業と行事への参加 町内会、商工会議所、青年会議所およびシニアクラブとの連携 他園、小学校、養護学校との連携		研修計画 〔三校〕月1度の三校研修（私立保育園連月刊誌の編集を通じた最新の保育理解）、大学院研究室所属（園長） 〔職員〕各職員が一度ずつ行方公開保育と全職員による振り返り、実習と研修との一体的学び（Learning in Teaching） 〔その他〕園外への外部研修、講師を招いての園内研修、先進的取り組みの園間研修	
自己評価等 〔外部評価〕公開保育のアンケート調査による評価 〔内部評価〕月1度の保育の振り返り、年1度の総合振り返り			